令和5年度　大田区立東調布第一小学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

≪教育目標≫
○**よ**く考え、工夫する子
○**い**つも元気で丈夫な子
○**こ**ころ豊かに助け合う子
○**ね**ばり強くがんばる子

◇知・徳・体のバランスのとれた東一の子の育成
　～未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む～
◇信頼される魅力ある学校づくり
　～学校・地域・家庭との連携・協働～

校内研究　「ICT共有の強みを生かした交流を通しての学びを深める指導の工夫」

知（確かな学力）　・・・基礎・基本の定着と共に、主体的・対話的で深い学びにより思考力・判断力・表現力を育成し、子供たちに確かな学力を 身に付けさせる。
徳（豊かな心）　・・・規範意識を向上させると共に、心の教育を充実させ、子供たちの豊かな心を育成する。
体（健やかな体）　・・・体力向上の取り組みや健康教育の充実により、子供たちの健康、体力を向上させる。
信頼される学校　・・・家庭・地域との連携を深め、共に子供たちを育てる。
教育公務員として服務を遵守し、保護者、地域の信頼に応える。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が90%以上である。	4:	4	今年度は、昨年度の研究の財産を基に、 校内研究のテーマを 「ICT共有の強みを生かした交流を通しての学びを深める指導の工夫」として研究を進めてきた。年間8回の研究授業を実施し、それぞれの研究会では講師の先生方からご指導をいただき、日々の実践に生かしてきた。授業の中でICTを使用する頻度も増え、低学年の児童であっても日常的に活用している姿が見られた。学校公開等においても、積極的にICTを活用している児童の姿や、テキスト入力のスキル向上が見られたことで肯定的なご意見をいただいたと考える。タブレット端末が日常的に活用されるようになり、文房具の一つとして身近な道具となった一方で、タブレット端末の取扱いが雑で、高価で精密な道具であることの認識が薄い。修理が必要となるケースが多く、改めて物を大切に扱う意識を育んでいかなければならない。同時に、本来の目的以外で使用する児童も散見されることから、情報モラル教育の充実と規範意識を育む指導の充実が求められる。 194名回答 肯定評価:93.3%	A	11	・ここ数年の学校の取組の成果に授業でのICTの活用が着実に進んでいることが分かる。一方で、子供たちのスキルのばらつきが少し気になる。得意・不得意はあるにせよ、テキスト入力のスピードや操作のもたつきでノートの替わりに使う際に、自分の考えや意見を十分に入力できているのか心配。 ・理科や生活科で写真を撮っている様子をよく見るが、タブレットをその辺に置くわけにはいかず、苦労しているようだ。自らの目でじっくり見る、手で触って細部まで確認するという体験と両方やっていると思うが、写真を撮ることが目的にならないように注意が必要だと思う。 ・タブレットを使うには、現在の机は小さい。他区で拡張する板を取り付けている所があるが、学校でも何かできたらよい。 ・ICT機器を使用しての授業により、子供たちが積極的に活用し、学力の向上を期待する。 ・Chromebookを活用することで、児童の表現力を高めることにつなげられると思った。（高学年でのプレゼン発表、中学年の防災調べなど） 扱いが雑であること、家庭・授業中の利用ルールが守れないことについては、対策が必要と感じる。 ・グローバル化を目指す大田区にとり、コミュニケーション能力、情報活用能力は、これからの未来のしなやかな対応を育てる大変大きな力と子供の自信につながると思う。また、これらを実践するための学校の取組も大変素晴らしいことであり、未来を生きるための大きな糧になると思う。 ・タブレットの使用や電子黒板を活用していると見受けられる。 ・様々な新しい取組に皆さん努力され、大変と思うが、これからも頑張ってほしい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が85%以上である。	3:			B	1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	2:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が80%以上である。	2:			C		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「ICT機器を活用した授業に取り組んでいる」の満足度が80%未満である。	1:			D		
		未来を創る力を育てるために、外部人材と連携したり、ICT機器を活用したりして、地域学習、国際理解教育、理科教育、食育などを実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が90%以上である。	4:	3	習熟度別の少人数指導が定着しており、全学年できめ細やかな指導が展開できている。特にじっくりと時間をかけて取り組む、算数が苦手な児童にとっては、教師が早い段階での躓きを把握しやすく、適切な支援を行うことができる。算数のステップ学習がデジタル化したことで、紙媒体の時よりも使い勝手が良くなった。児童は自身のタブレット端末内でチェック表の確認ができ、進捗状況を常に確認できるよさが見られた。 タブレット端末を活用することで、一人一人の理解度に応じた問題が出されるなど、より個別最適化された学びが実現できている。平日の放課後や土曜授業日に実施している「ステップアップタイム」では、繰り返し学習や、既習事項の学び直しを中心に行うことができ、普段の授業では十分な時間が取れない基礎を定着させるよい機会となっていた。 194名 肯定評価:89.7%	A	11	・2つめの「ステップ学習チェック表」の評価が「3」になっているが、児童や保護者が自らタブレット内で確認できるのであれば、先生方は学期ごとにお知らせくだされば十分だと思う。特に保護者にもっとタブレット内の情報に興味・関心をもってもらいたい。なかった世代の親からするともったいない。 ・タブレット有効活用により、学習意欲の向上に役立っていると思う。 ・昨年4月に導入した一人一台タブレットは、当初心配していた状況より大変早いスピードで児童・生徒一人ひとりに浸透したことは本当にびっくりした。特に、地域教育連絡協議会で学校参観するたびに児童の皆さんの技術が上がっていることは想像以上だった。そして、学習能力もICT利活用もしっかり定着している。 ・タブレット端末を活用することで児童一人一人の進度の確認ができ、繰り返しの学習ができることは、とても効果があると思う。 ・学力が向上する子や追い付かない子が居る中、それぞれ対応が大変と思うが、少人数指導は良いと思う。それに加えて、担任補佐を各クラスに配置することがよりよい結果となり、多様化対応の現代に沿った形になると考える。
		算数・数学到達度をステップ学習チェック表で児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が85%以上である。	3:			B	1	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	2:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が80%以上である。	2:			C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「確かな学力の定着」の満足度が80%未満である。	1:			D		
		主体的・対話的で深い学びにより、思考力・判断力・表現力を育てる授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							

プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	４：全教員が行った。 ３：80％以上の教員が行った。 ２：60％以上の教員が行った。 １：60％未満であった。	4	４：保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は90％以上である。 ３：保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は85％以上である。 ２：保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は80％以上である。 １：保護者アンケート「きまりを守る社会性が身に付いている」の満足度は80％未満である。	４： ３： ２： １：	4	学習規律については、概ね徹底されている。全体的に、おしゃべりが多く、全校や学年で集まる際に、話を聞く姿勢が整うまでに時間が掛かっている。授業の中でも聞く時間、話す時間を意識させる声掛けを心がけていく。 学校のきまりについては、一部で守ることができない児童が散見された。教員によって対応が変わるのではなく、本校の教職員が学校のきまりを理解して、自身の学級の児童だけではなく、本校児童全体に対して指導していく。共通理解・共通実践により、子供たちの規範意識を醸成し、きまりを守ることが結果的に自分たちが心地よく過ごすことができることにつながることを実感させていく。 毎週金曜日の生活指導夕会では、各学年より配慮を要する児童についての情報共有を行い、全教職員で共通理解を図っている。一人で問題を抱えるのではなく、積極的に情報発信し、状況を共有し、組織的で対応していけるように努めている。一方で、教職員一人一人のアンテナを高くし、身近な教員が児童の小さな変化や困り感にいち早く気付くことができるようになることが重要である。 194名回答 肯定評価：92.8％	A B C D	10 2	・残念なことに、学内ですれ違う時に、挨拶をしない教職員がいる。不審者対策でもあるし、子供たちの手本として、来客でも保護者でも（私は業者の方々でも）挨拶はした方が良いと思う。 ・今年度は学内での問題を都度共有してもらったので、私たちも活動する際に対応ができて、とてもありがたかった。 ・登下校時の挨拶が元気よく返ってくる。 ・第6学年では学年集会で児童に話した内容を保護者にも共有してもらった。家庭ではどんなサポートをすべきか明確になり、とても助かった。欲を言えば、家庭で子供と向き合う中で出てきた、子供にうまく伝えられないこと、子供の気持ちや成長過程で親が良く理解ができていないことを、先生に相談できる機会があればよいと思った。 ・「学校のきまりや社会のルールを守っている」ことに対する取組評価が高いことは、子供一人ひとりの正義感や自己肯定感、有用感を高める要因とともに「学校いじめ防止基本法」に沿っていじめの未然防止、早期発見等のために大変効果的であると思う。今後も大いなる取組になることを期待する。 ・学校内でのルールを守ることは、いずれ社会の中でのルールを守ることにもつながっていくので、しっかりと指導してもらいたい。 ・学校のきまりについては、よく守れていると思う。 ・いじめや問題行動があるのは、家庭や子供にも大きく依存するが、学校はよく対処し、運営に努力してきたと思う。よりよくしていくためには、教育界全体で対応策を見出していく必要がある。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	４：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 ３：学期に1回（年間3回）以上行った。 ２：年度間に1回以上行った。 １：実施しなかった。	4								
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：80％以上の教員が回答した。 ２：60％以上の教員が回答した。 １：60％未満であった。	4								
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	４：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 ３：80％以上の教員が回答した。 ２：60％以上の教員が回答した。 １：60％未満であった。	4								
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	４：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 ３：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 ２：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 １：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4								
		あいさつ運動を推進し、きもちよい挨拶の習慣を身に付ける指導に努めている。	４：全教員で行った。 ３：80％以上の教員で行った。 ２：60％以上の教員で行った。 １：60％未満であった。	4								
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	４：全教員で行った。 ３：80％以上の教員で行った。 ２：60％以上の教員で行った。 １：60％未満であった。	4	４：児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が90％以上である。 ３：児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が85％以上である。 ２：児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が80％以上である。 １：児童アンケート「（自分は）体を動かすことが好きだ」が80％未満である。	４： ３： ２： １：	4	アフターコロナにより、行動制限が解除され、様々な行事や活動などが実施されるなど、学校に活気が戻ってきている。体育の授業をはじめ、運動会、体育朝会、縦割り班活動など、体を動かす機会が増えた。 外部団体の協力を得て、元オリンピアンによる陸上教室、元プロ野球選手による野球教室なども実施し、運動することへの興味・関心を高めることに大変効果があった。 感染症の心配はひと段落付いたものの、ここ数年は激しい暑さによる熱中症の危険性が増している。今年度も、校庭体育や水泳指導の際は、常に熱中症警戒アラートの確認やWBGTの計測を怠らず、熱中症予防対策に努めた。 662名回答 肯定評価：92.0％	A B C D	11 1	・休み時間や放課後の学童や子ども教室でもはじけるように遊んでいる子供たちを見ていると心が和む。もっと、思い切り自由に身体を動かす時間を増やしてあげたいと思う。 ・洋服を着ていての水泳指導、あわてず、授業で教えてもらったことができるとよい。 ・外部団体の方の訪問指導は、とても良い刺激になったと思う。大縄跳び大会も盛り上がっていた。 ・健康、成長という点で、机と体のサイズが合っていない児童がいるので、長時間座ることの影響があるのか気になった。（高学年でクラスに1、2名程度） ・昨年5月にコロナ規制が緩和され、学校教育の体育祭や部活、その他スポーツでも多くの活躍が目立ってきている。特に若い人の活躍が国内外であり、日本のスポーツの進歩の素晴らしさを痛感する。そして、これら運動と健康アップは昨今のオリンピックでも明白である。加え、基本的健康管理について日頃の「早寝、早起き、朝ごはん」の取組は、結果として大田区内では3桁100歳寿命の基本的健康管理にとり体力の増進に不可欠と思う。さらに、小生も現在「生涯スポーツへの取組を行っており、区が平成26年に宣言した、スポーツ宣言都市として未だ人数は少ないが、8歳から82歳の皆さんと健康テニスを楽しんでおり、生涯学習にも役立てている。 ・休み時間には元気に走り回っている姿が見られて嬉しい。 ・子供たちの体力向上に努力していると思う。 ・子供の体力の低下が心配される今日この頃だが、「身体を動かすことが好き」という答えが多く安心した。 ・学力だけではない学校生活の重要な要素であり、それは楽しい雰囲気が感じられることでよい現状を示している。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	４：全教員で行った。 ３：80％以上の教員で行った。 ２：60％以上の教員で行った。 １：60％未満であった。	4								
		体育的行事、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	４：全教員で行った。 ３：80％以上の教員で行った。 ２：60％以上の教員で行った。 １：60％未満であった。	4								
		熱中症警戒アラートやWBGT（暑さ指数）をもとに、熱中症予防対策に努めている。	４：全教員で行った。 ３：80％以上の教員で行った。 ２：60％以上の教員で行った。 １：60％未満であった。	4								

プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:保護者アンケート「教え方（内容や方法）を工夫している」の満足度が90%以上である。	4:	4	学校公開や運動会、東ーギャラリーなどの学校行事おいて、保護者・地域の方の人数制限を行わずに実施することができた。子供たちの様子や、教員とのやりとりの様子を見ていただくとともに、率直なご意見をいただきながら、各教員が自身の指導をふり返る機会となった。区内の小中学校で行われた各種研究発表会に本校教員の代表が参加し、そこで得た研究や研修の成果を自校に還元することができた。また、近隣校（洗足池小、田園調布小）で行われた研究発表会には全教職員が参加し、授業実践や研究発表に触れることができた。若手教員を中心とした自主的な研修を定期的に実施し、先輩教員や仲間の経験、実践等を学ぶことができた。学年の垣根を超え、互いに自己研鑽に励むことにより、学校全体の授業力向上に結び付けていく。 194名回答 肯定評価:93．3%	A	11	・地域の方々から、子供たちの様子を見てみたいとの声を聞くことがある。縁者が学内に居ない方でも参観ができる行事があれば地域に広報できたらよいと思う。 ・東ーギャラリーの作品の展示場所が一つになり、とても見やすく良かった。校長先生をはじめ、教職員の皆様の努力が見受けられ感謝。 ・各行事は、今年度はコロナ禍の制限解除があり、運動習慣はこれからの学校教育の中でも大切なことであり、益々の取組に期待する。それもこれも校長先生をはじめ教職員・関係者皆様のご尽力の賜物と深く感謝している。特に私ども近隣住民として日頃の授業内容に関しては詳細は分からないが、朝・晩の児童を見守る児童誘導員の方は各天候にもめげず、見守りをしてくれており、時間を見付け近隣学校近辺、近隣住民への挨拶までしてくれていることに感謝している。一方、先生方も授業の各種工夫を行い、区が推奨しているSDGs（持続可能な開発目標に沿った、分かりやすい教育（デジタルデバイド対策）、（ユニバーサルデザイン化）また、現在東一小（小生３年生担当）地域の歴史勉強等は非常に有益な授業と感心している。また、その際の児童の皆さんが一生懸命質問し、勉強していることに児童の皆さんが地域の将来を担う宝と感じている。 ・東ーギャラリーなどの開放で地域との連携がよくとれていると思う。 ・学校側が「地域に開かれた学校」を目指している姿勢が感じられた。 ・悪さをしてしまう子に手を挙げられない学校教員の現状では、旧来はそれで躾をしてきたのに、現代では代替の対応策が教育業界として研究されてきたのだろうか。ただ優しい教員だけになってしまっては、野放しな子が増えてしまう。地域全体で子供たちを見守る必要があると思う。少しでも支援していこうと思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:保護者アンケート「教え方（内容や方法）を工夫している」の満足度が85%以上である。	3:			B	1		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:保護者アンケート「教え方（内容や方法）を工夫している」の満足度が80%以上である。	2:			C			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4								
		校内研究・校内研修を活性化し、教員の指導力向上に努めている。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「教え方（内容や方法）を工夫している」の満足度が80%未満である。	1:			D			
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　90%以上である。	4:	3	毎週金曜日に設定した朝読書の時間に、読書学習司書やPTAの読み聞かせの会などによる読み聞かせの時間を充実させることができた。子供たちの反応も良く、その時間を楽しみにしている様子が見られた。 東ーサポーターズリンク（学校支援地域本部）のバックアップにより、地域人材を生かした特色ある教育活動を展開することができている。また、各学年の授業支援においても多くの保護者や地域の方々にサポートしていただいており、本校の教育活動充実のために連携は不可欠である。 学校のホームページを通じて、児童の活動を積極的に発信するよう心がけてきた。 194名回答 肯定評価:89．2%	A	11	・ホームページの更新は、手間かと思うが、普段の何気ない様子で構わないので、毎月できたらよいと思う。もっと地域、家庭の皆様に見てもらいたい。 ・学校とは何をするところ？家庭の責任とは？色々なことを考えさせられる1年だった。相互協力の前に、しっかりと役割を認識してもらうことが必要なのでは…とも感じた。そして、一番大事なのは、子供たちの思いに拙いかもしれないし、間違っているかも知れないけれど、聞いてあげることができたらと思うことがあった。 ・青少対行事の木工教室、夏まつり、デイキャンプと地域の子供たちに参加してもらい良かった。 ・共働き世帯が増えている中で（9割以上が何らかの仕事をしている）、学校と保護者の連携を深めるためには、旧来とは違った取組をしていかなければならず、大変だと思うが、丁寧に情報発信してもらえてると思う。 ・ようやくコロナ禍もおさまり、各種行事も日々盛んになっていく中、行事が多くなったことにより、学校と家庭と地域との活動も増え、コロナ禍前の様な協働イベントも多くなっている。特に各学校、関係先共に行事・イベントが増え、さらには、高齢化・少子化もあってボランティアが少なくなっている面もある。そのような中で、いかに学校・家庭・地域が一体となって創意工夫し協力し合い、活動の輪を広げていくことは非常に大変であると思う。そのような中にあって、当地域・自治会では、①平成26年の大田区内スポーツ宣言都市に基づき、生涯スポーツと健康を意識した取組を行う。②令和5年のSDGsへの取組（持続可能な目標）③その他、3桁100歳への取組（生涯、趣味・スポーツへの取組）、学校・家庭・地域が一体となったワンチームでの地域活動を推進していく。 ・6年生の茶道体験では久しぶりに地域の皆様をお招きできたことをとても嬉しく思った。保護者の方からの回答者数が昨年度より少なくなっており、とても残念。 ・とういちサポーターズリンクは、大変よく活動しているのでスムーズな地域連携がとれている。 ・校長が代わって地域をよく知らない点も多かったと思うが、よくやってきたと思う。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	3:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　85%以上である。	3:			B	1		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	2:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　80%以上である。	2:			C			
		地域人材や読書学習司書を生かした読み聞かせや計画的な朝読書などを実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:保護者アンケート「地域や保護者と連携した教育活動を進めている」の満足度が　80%未満である。	1:			D			

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である　B:自己評価はおおむね適切である　C:自己評価は適切ではない　D:評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。